

## 「復興に係る生徒の取り組み」

## 宮城県古川工業高等学校

### 1. 活動の概要

#### ①街のボランティアセンターへの登録

- ・片付けの手伝い
- ・引っ越しの手伝い
- ・割れた皿や倒れたタンスなどの整頓
- ・写真洗浄

ボランティアセンターでは、主に、割れた食器の片付けなど、力を使わない仕事には女性を派遣し、家具の移動など力仕事は主になるものには男性が派遣

瓦礫や泥かきなどといった作業は、高校生だということで残念ながらできなかった。

(多くは一人暮らしのお年寄りの依頼)

#### ②今の自分たちがやるべきことについてみんなでお話し合い(運動部)

- ・学校内の掃除
- ・倒れたものや壊れたものの復旧
- ・学校周辺地域の片付けの手伝い
- ・壊れたものの回収・運搬

#### ③ハイスクールサミットへの参加

- ・高校生同士で復興・ボランティア・教訓についてのワークショップ
- ・フロアーディスカッション

#### ④古工フリートーキング

- ・生徒と保護者で震災について考えの話し合い



ハイスクールサミット in 東北

### 2. 活動の成果等

依頼された内容によって派遣するボランティアを選び、作業が円滑に進むような行政の工夫が理解できた。

手伝い後に感謝されることの嬉しさや今後のボランティア活動についての考えが深まった。

テントに滞在しながらボランティア活動を行っている人たちにお世話になり、その人たちは北海道や沖縄、東京など様々なところから参加していることでたくさんの方々が被災地をバックアップしてくれていることがわかった。

被災した地域のために役に立ちたいと思ったきっかけなど、様々な話を聞くことができた。人々のふれあいについて考えることが出来た。

写真洗浄からをこの写真を探している人は必ずいるのだと信じるのが大切だと考えた。

当たり前だと思っていた日常・普通にすごせることが素晴らしさ・感謝の気持ちを持つことの大切さ学んだ。

ボランティアをする中で「工業高校の野球部を応援しているよ。」と声を掛けていただき、地域から支えてもらっていることが理解できた。

このボランティアの経験はとても貴重で、継続的に被災地のために活動をしなければならないボランティア活動の必要性が理解できた。

同世代の高校生がどのような考えをしているか共感できた。



学校周辺地域の瓦礫回収